

## みんなの運動会

### ～伊野部町民親善運動会～

**五個荘伊野部町**は、五個荘地区の一番南に位置し、町の二方を観音寺城の支城である箕作城が築城されていた箕作山に囲まれた人口182人、47世帯で、高齢化率約33.5%の自治会である。建部神社は、大津市瀬田の建部大社の創建地であり、まとまりのある農村集落として栄え、その営みを伝承し続けている。

#### 1. 区民運動会から町民親善運動会へ

五個荘伊野部町（以下、伊野部町）では、建部神社、箕作山正福寺などの神仏を大切に護りながら、暮らしの安寧を願い、豊かな村づくりを願う人々の営みが連綿と紡がれてきた。

その営みのなかの一つに運動会がある。伊野部町のなかでは最も新しい行事であり、スポーツ推進員が担当して開催する。

伊野部町の運動会は、旧五個荘町時代の昭和62年（1987）から「区民運動会」として始まった。平成27年（2015）10月に開催した「第29回区民運動会」を契機にスポーツ推進員で話し合って一旦見直すことになった。

子どもの数が減り続ける一方、高齢者の数は増え続ける。長寿化は喜ばしいが、運動会の準備等の負担が大きくなってきたからである。

見直された結果、運動会は住民同士の交流・親睦に重きをおいて3年に1回開催し、その間はグランドゴルフ大会を開催することに決まった。

#### 2. 第30回伊野部町民親善運動会

「第30回伊野部町民親善運動会」と改称した第30回運動会が、平成30年（2018）10月8日の体育の日に開催された。

会場は草の根広場である。自治会あげてグラウンド整備を行う。スポーツ推進員と福祉健康推進委員会のメンバーがグラウンド整備やテント立てなどの会場準備を行う。秋晴れのなか、午前9時に開会。伊野部町のほとんどの人が参加する運動会である。

開会式から閉会式を含めて13のプログラムで構成されている。



このうち、「いざ!!出動」というプログラムは、「火事だ」「いざ出動！」を号砲に、ヘルメットをかぶって法被を着て消防態勢を整え、どんごろす（麻袋）に足を入れ飛びながらゴールへ向かい時間を競う。特設消防団の40歳代から60歳代の男性20人が訓練を兼ねた競技である。

特設消防団の出番はこの競技だけではない。ほぼ全戸の住民が参加し、家が留守になるので空き巣が心配である。そこで、特設消防団員が手分けをして町内のパトロールも行う。

「コントロールはおまかせ」というプログラムは、スタートの号令で、ラグビーボールがセットされている地点まで走る。そして、そこからラグビーボールを蹴って設置されたカラーコーンを周り、ボールを元の場所に戻してゴールする。

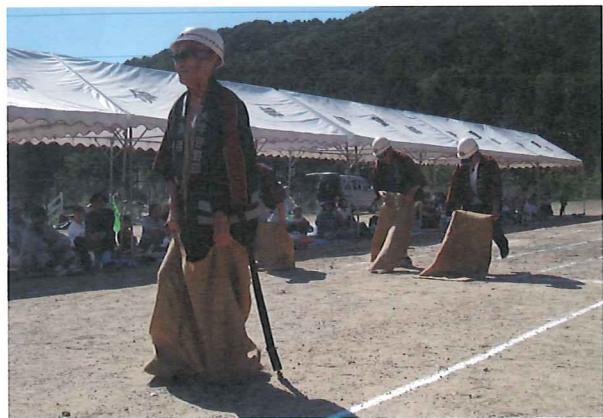
「ジャンボバトンリレー」は、ジャンボバトンを3人1組で脇に銃んでリレーする。メンバーの息があうかどうかが勝負を決める。

競技性をもちろん、和気あいあいと楽しめるプログラムとなっている。

昼食はお弁当をみんなで食べて交流し、親睦を図る。

そして、「お楽しみ抽選会」である。運動会のプログラムは町内全世帯に配布される。そのプログラムには番号が振ってある。1軒に1つの番号で、抽選で1等から47等まで決める。やはり抽選会は盛り上がる。

昼食後にクイズに○か×かで回答する「ウルトラクイズ」で楽しみ、閉会となる。



「いざ出動」の様子



「ジャンボバトンリレー」の様子

### 3. 「みんなの」運動会

運動会には、就職や結婚で町から出た人も帰ってくる。

「高校生は余り参加しませんが、それでも意外と若い人が来てくれます」と北川自治会長は話す。

年に一度の町をあげての親睦の場であり、「みんなの運動会」なのである。

伊野部町は世帯の増減がほとんどない自治会で、現在、小学生は5人、中学生は3人、青年男性の数も一桁台となった。「奉納相撲」を続けるにはそろそろ限界であるという。

しかし、町内の結びつきは強い。

今年（令和2年）度のスポーツ推進員で正福寺住職の関正見さんは、平成7年（1995）に伊野部町に転入してきた。

関さんは、「はじめて運動会に参加したときに親しく声をかけてくださいり、本当に強烈に歓迎していただき、大事にしてもらっています」と当時を振り返って話す。

「一人暮らしになんでも安心して暮らせる町が伊野部町です」と福祉健康推進員の辻野さんは話す。

次回の開催予定は令和3年（2021）10月11日（月）。

コロナ禍が収束し、伊野部町の「みんなの運動会」が晴れ晴れしく開催されますように。